

1 単元 家族の幸福とは（生き方を語り合う）

2 単元の構想

(1) 本単元で目ざす子どもの姿

「幸福な食卓」を読んだ子どもは、作品にこめられたメッセージについて考え始める。佐和子を中心とした登場人物の変化や、食卓や食べ物の象徴するものについて考えていく中で、子どもは、家族のもつ緩やかなつながりや優しさを感じ取っていく。家族の意義を再発見した子どもは、「幸福な食卓」に対する考えを批評文としてまとめ、現代における家族の幸福について、仲間とともに更に考えていく

(2) 本単元で伸ばしたい力

前単元「私の“本”心を伝えよう」では、聞き手を意識したプレゼンテーションを行う中で、自らの思いを表現する力を高めることができた。双方向のコミュニケーションをとおして、子どもは情報を発信する側の意図をくみ取る大切さを感じ取ってきた。

本単元では、家族をテーマとして描いた長編作品を読む。食卓の場面など、エピソードや象徴的な表現に着目して作品を読み返すことで、作品にこめられたメッセージを捉える力を高めていく。また、作品中の登場人物の変化や互いの関わりについて考えることで、家族のあり方についての考えを練り上げる力を高めていく。作品に対する自らの考えを批評文にまとめていく中で、構成を意識して表現する力を伸ばせるようにしたい。

(3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

単元の導入で「幸福な食卓」（瀬尾まいこ）を提示する。子どもは、家族は大切なもの、あるべきものと捉えているため、家族のつながりが軽視されているように読める作品の設定に違和感を覚える。佐和子の目線から描かれた登場人物の言動をもとに、家族とはなんなのかということについて考えながら、作品を読み進めていこう。

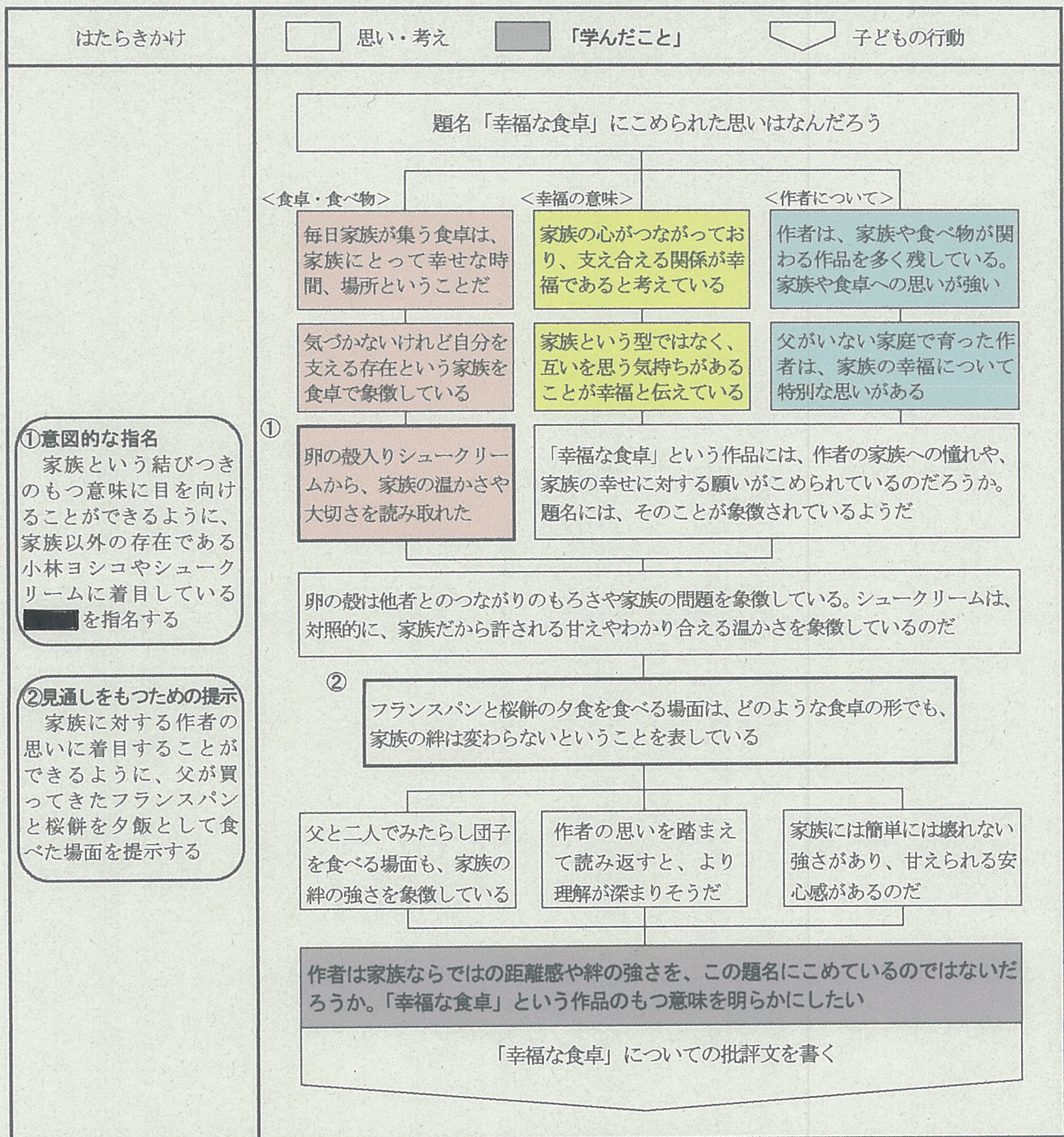
多くの子どもは、恋人を失いながらも、前を向いて生きようとする佐和子の再生していく姿から、それを支える家族という結びつきの大切さを感じ取るだろう。その中で、「幸福な食卓」という題名に着目している子どもの考えを取り上げる。子どもは、作者が題名にこめた意味は何かを追究する中で、「幸福な食卓」には、食べ物や食卓の場面の描写が非常に多いことに気づく。ここで「海苔と卵と朝めし」（向田邦子）を提示する。子どもは、食べ物や食卓の場面の描写から、家柄や登場人物の関係、心情などを読み取ることができると知る。そして「幸福な食卓」における食べ物や食卓の描写にも、登場人物の思いや作者の伝えたいことが表現されているのではないかと考え、再度作品を読み返す。食卓を囲む人物構成や、そのときどきの心情の変化、並ぶ食べ物のもつ意味などを考えながら、子どもは崩壊から再生していく登場人物の変容を再確認し、家族という結びつきのもつ意味について更に考えていく。その中で、卵の殻入りシュークリームに着目している子どもの考えを取り上げる。子どもは、卵の殻が象徴するものは何かを考えながら、題名にこめられた、家族という結びつきの強さや温かさを理解していく。そして、長編作品を丁寧に読み解く中で、子どもは登場人物の変化や象徴的なエピソードなど、作品中のさまざまな表現を根拠として、家族のもつ、互いを思いやる真剣な優しさを個々に感じ取っていこう。そのうえで家族とは、友人や恋人とは違った緩やかな温度や距離感を持ち、簡単には壊れない安全基地であることを理解していく。

子どもは、個々に読み取ってきたことを共有し、「幸福な食卓」という作品のもつ意味や、読者に与える影響について明らかにしたいと考える。そして、作品に対する解釈を批評文にまとめていく。書いた文章を仲間と読み合う機会を設けることで、子どもは「幸福な食卓」という作品の構成や表現の巧みさを再認識するとともに、文学作品を読み解くためのさまざまな観点について知ることができよう。また、家族についての自らの見方や考え方をより広げていくことができるはずである。家族という結びつきの意義を見つめることで、自分を支える存在の大きさを知った子どもは、家族を扱った作品を幅広く読みながら、自らの生き方を真剣に考えていくようになる。

4 本時の構想 (9/15)

子どもは、「幸福な食卓」(瀬尾まいこ)を読み、作品の主題について考えてきた。前時まで、「幸福な食卓」という題名に着目し、各自の考えを整理してきた。

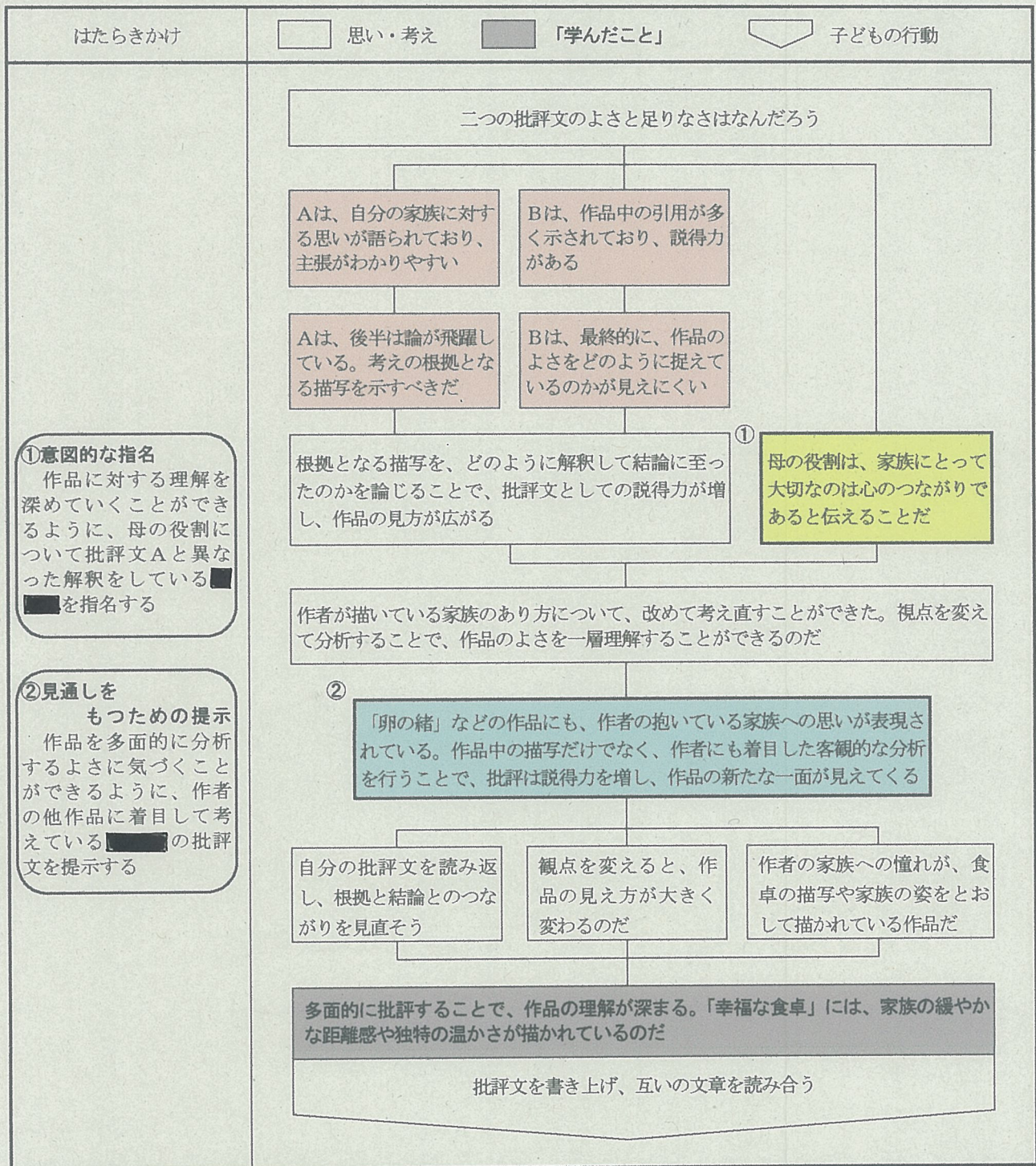
本時では「幸福な食卓」という題名にこめられた思いを明らかにするための意見交流を行う。まずは、食卓の描写をもとに考えている子どもが発言する。毎日家族が集い、思いを共有する場である食卓は、家族のつながりを象徴しているという考えが出される。それに対し、幸福という言葉の意味に着目している子どもが関わってくる。問題が起こっても食卓を囲み、語り合う家族の姿から、幸福とは、普段は気づかないけれど自分を支える家族がいることだという考えを述べるだろう。更に、作者の他作品や生育歴をもとに、家族の幸せへのこだわりや憧れを作品にこめていると考える子どもが発言する。ここで、小林ヨシコに着目している[]を指名する。卵の殻入りシュークリームには、家族のあり方が象徴されているという考えにふれることで、子どもは家族だからこそ許される甘え方があり、家族特有の距離感が存在していることを改めて感じ取る。その後、父が買ってきたフランスパンと桜餅を夕食として食べる場面を提示する。子どもは、あえて日常の型を崩す場面を描くことで、普段意識していない家族という存在の大切さを浮かび上がらせている作品の手法に気づくだろう。題名にこめられた思いを明らかにした子どもは、作品から伝わってくるメッセージを明らかにしようと、作品を読み返し、考えを文章にまとめていく。



4 本時の構想 (13/15)

子どもは、「幸福な食卓」(瀬尾まいこ)を読み、作品のもつ意味を追究してきた。そして、前時まで、この作品に対するそれぞれの考えを、批評文としてまとめ、中間作品を読み合ってきた。

本時では、子どもの中間作品から■■■■の批評文Aと■■■■の批評文Bを取り上げ、作品のもつ意味や、批評文に大切なことを明らかにするための意見交流を行う。まず、説得力があるかという観点から、根拠の示し方や構成、表現方法などに関する意見が出される。意見を交わす中で、子どもは、描写をどのように解釈して結論づけたかの過程を説明することの大切さに気づくだろう。ここで、母の役割について、批評文Aとは異なった解釈をしている■■■■を指名する。子どもは、解釈のずれについて根拠を示しながら語り合う中で、「幸福な食卓」に描かれている、家族のもつ独特の距離感や絆の強さに対する理解を深めていく。そして、視点を変えて分析することで、作品のもつよさを一層理解することができると気づくだろう。その後、作者の他作品に着目して考えている■■■■の批評文を提示する。子どもは、客観的な観点からの分析を行うことで、批評が説得力を増すと感じ取るだろう。子どもは、「幸福な食卓」という作品のもつ意味を更に考えようと、自らの批評文を読み返し、加筆、修正していく。



主なはたらきかけ	<input type="checkbox"/> 思い・考え <input checked="" type="checkbox"/> 「学んだこと」 <input type="checkbox"/> 子どもの行動	国語科で重視する力
<p>○認識を揺さぶる提示 家族のあり方や意義について着目することができると、「幸福な食卓」(瀬尾まいこ)を提示する</p>	<p>ビプリオバトルで知ったいろいろな本を読んでみた</p> <p>家族は大切な存在だが、時に疎ましく感じることもある</p>	<p>☆捉える力 ・象徴的な表現や作品の展開、エピソードに着目しながら、作者が伝えようとしていることを読み取る</p>
<p>○意図的な指名 作者の伝えようとしているメッセージを明らかにしていくことができるように、「幸福な食卓」という題名に着目している子どもを指名する</p>	<p>家族とはなんなのだろうか 1時～3時</p> <p>家族は強いつながりだと思っていたが、脆いかもしれない</p> <p>父さんを辞める、とはどういうことなのだろうか</p> <p>佐和子の家族と坂戸君や大浦君の家族のあり方もかなり違う</p> <p>「幸福な食卓」には家族のあり方に対する作者のメッセージがこめられているようだ。この作品は何を伝えようとしているのだろうか</p>	<p>☆捉える力 ・作品中の食べ物や食卓の象徴するものについて食事のもつ以下の四つの意味を踏まえて考えていく</p>
<p>○見通しをもつための提示 食卓や作品中の食べ物に目を向けることができるように、「海苔と卵と朝めし」(向田邦子)を提示する</p>	<p>作品を読み返し、家族のあり方について考える 4時～9時</p> <p>恋人を失い、佐和子は自分を支える家族の大きさに気づいた</p> <p>佐和子の周りにはいつも変わらずに家族の支えがあった</p> <p>父や兄はうつ病だったのだろう。家族の支えで再生している</p>	<p>☆捉える力 ・作品中の食べ物や食卓の象徴するものについて食事のもつ以下の四つの意味を踏まえて考えていく</p>
<p>○見通しをもつための提示 作品を多面的に分析することができると、作品について批評的に論じる文章を提示する</p>	<p>題名の「幸福な食卓」にはどのような思いがこめられているのか</p> <p>卵の殻入りシュークリームには家族への憧れがこめられている</p> <p>家族の絆や幸せな時間の象徴として食卓の場面を描いている</p> <p>母の食事へのこだわりは、家族への愛情や執着を表している</p> <p>作者は、家族ならではの距離感や絆の強さを、この題名にこめているのではないだろうか。「幸福な食卓」という作品のもつ意味を明らかにしたい</p>	<p>①人物像の表現 (心理を表す) ②コミュニケーションの場(親密さ) ③生きる基盤 (家柄、性格) ④物語の舞台</p>
<p>○自問の視点の提示 自らの考えの確かさを振り返ることができると、自問の視点「客観的に見たか」「根拠は確かか」を提示する</p>	<p>「幸福な食卓」についての批評文を書き始める 10時～13時 (本時13)</p> <p>対比人物の役割を考えると、作品の新たな面が見える</p> <p>佐和子の変容に着目すると、家族の支えの尊さが読み取れる</p> <p>父の自殺未遂は、現代の家族のあり方に対する警告なのか</p> <p>家族の崩壊を描くことで、日常にある幸福を伝えている</p> <p>家族は社会の中で個を支える安全基地であるといえる</p> <p>作者は、家族という存在への憧れを複数の作品に描いてきた</p>	<p>☆練り上げる力 ・食卓や作品中の食べ物や食卓の象徴するものを考えながら登場人物の変容を読み取りそれをもとに、家族に対する自分の考えを構築する</p>
<p>○仲間の考えを示す 気づきや疑問点、自らの生き方について考えることを仲間と共有できるように、内容をボードで掲示し、付箋での交流を促す</p>	<p>多面的に批評することで、作品の理解が深まる。「幸福な食卓」には、家族の緩やかな距離感や独特の温かさが描かれているのだ</p> <p>批評文を書き上げ、互いの文章を読み合う 14時～15時</p> <p>改めて自分自身を支えている存在の大きさに気づいた</p> <p>互いの考えを尊重しながら、家族という単位を大切にしたい</p> <p>自分にとっての家族の幸福をこれからも考えていきたい</p>	<p>☆表現する力 ・家族に対する自らの考えを、以下の四つの点を意識して、批評文にまとめる</p> <p>①観点をしばって分析する ②作品のもつよさや特徴を論じる ③自分にとっての作品のもつ意味を述べる ④論理的な構成や表現を工夫する</p>
	<p>家族の意義やあり方について考えることで、自分を支える存在の大きさを知った。今の家族、将来の家族を大切にしなければならない</p> <p>家族を扱った文章を読み、自らの生き方を見つめ直していく</p> <p>外国と日本との家族に対する考え方の違いも知りたい</p> <p>家族をテーマにした作品もどんどん読んでいこう</p>	